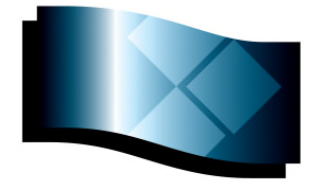




COMMUNICATION ON  
PROGRESS

This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.



STEEL PRO

---

# Communication on Progress

2021年度報告

対象期間 : 2021年 1月～2021年 12月

---

瀬戸内スチール株式会社

2022年 1月 24日



## ◆ トップステートメント

---



国連の提唱する人権、労働、環境および腐敗防止に関する普遍的原則である『国連グローバル・コンパクト』に、当社は2011年1月から参加しています。

Sustainable Development Goals への積極的な取組みを通じて、事業体として自らの持続可能性を高めつつ、持続可能な世界づくりに貢献してまいります。

2022年1月24日

代表取締役社長

原田憲太郎

---

# ◆グローバル・コンパクト10原則



---

人権	企業は、 原則 1: 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則 2: 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働基準	企業は、 原則 3: 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、 原則 4: あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則 5: 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則 6: 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	企業は、 原則 7: 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則 8: 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則 9: 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	企業は、 原則 10: 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

---

## ◆会社概要



会社名	瀬戸内スチール株式会社
本社	広島県福山市大門町5丁目6-35 〒721-0926 TEL. 084-941-3111 代表) FAX. 084-941-1312
資本金	3,300万円
創業	昭和20年10月
設立	昭和41年8月6日
年商	54億6356万円(5期)
代表者	代表取締役会長 原田 弘人 代表取締役社長 原田 憲太郎
従業員数	120名(グループ合計)
グループ	福山倉庫運輸株式会社 スチールプロマネジメント株式会社 有限会社クリーンライフ

## ◆ 2021年度活動の基本方針



国連グローバル・コンパクトへの支持を表明して11年目である本年度は、4分野すべてにおける実践的活動を目指すと共に、関連するステークホルダーへのグローバル・コンパクト支持の呼び掛け、及び10原則に沿った会社運営と社員の意識レベル向上を図る。

また、2011年度から取り組んできた「身近で誰もがができる活動」の幅を無理のない範囲で広げていくとともに、その活動そのものの定着を目指す。

# ◆人権分野に関する活動報告



STEEL PRO

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
国籍、性別、障害者などに対する差別、偏見の排除	性別による偏見排除のない人事考課の基準作りと、能力、適性に応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組作り	○	本年度は、女性の課長及び主任昇進者が各1名誕生。現在、入退社による増減はあるものの、課長職2名、係長職5名、主任職4名で、女性社員の14名中11名が役職者として勤務。	継続して、性別による偏見のない人事に取り組むとともに、能力、適性に応じた職務、役職、ポストへの適正配置の仕組作りを目指す。
	評価基準の見直しと評価者への教育	○	筆記試験、実技試験の標準化と複数の試験官による評価と、評価者同志の意見交換による適正評価の仕組作りを継続中。 評価の基準も毎年見直しを行い、募集する職務及び社会情勢に応じた公正で適切な判断が出来るものに改良を続けている。	今後も継続して、評価基準の見直しと評価者への教育を進めていくことで、採用における不公平の排除を目指す。
世界の子供たちが安全で健やかに育つ環境づくり支援	マラリア撲滅運動への参加 エコキャップ運動への参加	○	僅かながらの支援であるが、今年も募金活動を継続することができた。この支援活動は、「身近で誰もが出来る活動」からという会社の方針に沿った活動の一つで、継続することに重きを置いた活動を続けている。 参照：『その他の活動報告 世界の子供たちのために』	今後も継続して、支援活動を行っていく。

# ◆労働分野に関する活動報告



STEEL PRO

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
役職、職能レベルの基準作りと教育の仕組み作り	個人別でのキャリア育成を目的とした長期的な教育の仕組み作り	○	環境、社旗情勢に応じたフレキシブルな職域別・階層別教育の仕組み作りを継続中。 職域別教育については、各部門にて進めてきた教育項目の見直しも進み、教育計画も改訂されてきた。 階層別教育については、総務部主管で、新人、リーダークラス、部門長クラス、事業部長クラスに分け、各階層に応じて求められる職務を明確にしての教育計画を立案中。 また、2020年11月より導入した外部コンサルタントによる「継続的な成果を生み出す現場づくり」を目的としたトレーニングも、着実に成果を生み出しつつある。	継続して、個人別でのキャリア育成を目的とした教育、生涯キャリアの視点に立った教育の仕組み作りと環境整備を目指すことで、組織の機能向上を図る。
従業員の多様性の尊重	経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと遣り甲斐の持てる仕事の提供	○	2021年12月時点で、82歳の監査役を筆頭に、社員では、70歳代1名、65歳以上4名、60歳以上6名が在籍。 いずれの社員も、執行役員として経営に参画、部門長として担当部門の運営、後進の技術指導等、その経験や能力を生かし、責任ある立場で活躍中。	継続して、単に高齢者の雇用に止まらず、その経験と年齢に応じた働きやすい環境作りと、遣り甲斐の持てる仕事の提供を目指す。
働きやすい環境の整備	子育て、介護に対する支援制度整備と運用の仕組み作り	○	子育て、介護支援の一環として、勤務時間帯の変更や、半日単位での有給休暇取得制度を継続。 現在、子育てのための制度活用者は、2021年12月時点で、産前産後の休業が1名、育児休業が1名。育児休業中の社員は4月頃には職場復帰の予定。	継続して、働きやすい環境作りとその効果的な運用を目指し、制度の周知とその活用を促していく。 特に、健康管理面では、健康診断結果のフォローとメンタルヘルス対策に力を入れ、健康で働きやすい環境作りを目指す。
	健康管理のための補助制度運用	○	本年度も、保険適用外であるインフルエンザ予防接種の費用補助として、半額を会社が負担。 また、職場環境に対する「社員相談窓口」と併設で、健康診断結果のフォローを継続実施中。 特に本年度は、COVID-19の感染予防対策に重点を置き、社員の体調把握と、換気、手洗い、うがい等の基本的対策の徹底を図り、社内感染発生を防ぐことができた。	
	職場環境に対する問題点、要求事項の吸い上げと対応の仕組み作り	○	現場での暑さ対策として、空調服、スポットクーラー、強力送風機の追加設置と維持管理を実施。また、寒さ対策としてのインナースーツの補充等の細かな職場改善にも取り組んでいる。	

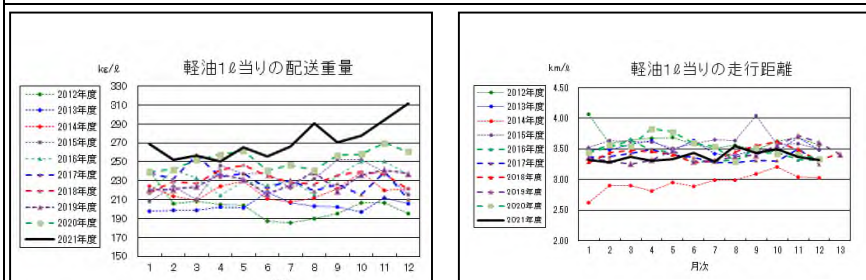


# ◆環境分野に関する活動報告 (その1)



本年度の活動目標 内容		結果と評価	来年度の活動目標 内容
輸送効率のアップ	合い積み可能な配送先の確保と配送ルートの見直しで輸送効率のアップ エコ運転の励行	○ 昨年度に比べ、トレーラーでの大量輸送が増えたことで、軽油 1ℓ 当たり配送重量」は 8%アップしたが、逆に、軽油 1ℓ 当たり走行距離」は合い積み件数が増えたことで小刻みな荷下ろしが増え、4%ダウンした。	継続して、合い積み可能な配送先の確保と配送ルートの見直し、及び的確な配車計画の運用で、配送効率の向上を目指す。
梱包資材のムダ削減とリサイクル	梱包用木材の回収率アップと再利用促進	○ 昨年度より、定尺シート用井桁スキットにターゲットを絞ってのリサイクル活動を進めてきたが、お客様の協力もあり、徐々にではあるがリサイクル率は上昇中。	継続して、お客様へ協力をお願いしてリサイクル促進を図るとともに、自社内でも廃材の有効活用やムダ排除を進めていく。

## <輸送効率のアップ>



### ○合い積み配送の促進と配送ルートの見直し & ○エコ運転の励行と指導

COVID-19 による影響を振り返るため、2019 年度実績と比較すると、2020 年度は、配送重量 86%、走行距離 80%と、仕事量自体の減少が目立ちました。

同じく、2021 年度について見ると、配送重量 121%、走行距離 101%増と、配送重量は大きく増えています。

これは、小口配送の合積みだけでは収益を維持できないため、近距離でのトレーラー輸送の仕事確保を目指した営業活動の成果と言えます。

同様に輸送効率を 2019 年度比で見ると、軽油 1ℓ 当りの配送重量」は、2020 年度 111%、2021 年度 119%と増加。軽油 1ℓ 当りの走行距離」は、2020 年度 103%、2021 年度 99%と、ほぼ横ばい状態となっています。

これは、単に営業努力での仕事確保の結果でなく、仕事の変化に対応した配車担当の工夫、配送担当者一人一人のエコ運転実践等、全社で勝ち取った成果と言えます。これからも、今まで行って来た活動を継続し、更なる輸送効率のアップを目指します。

## <梱包用木材のリサイクル>



### ○梱包用木材のリサイクル

当社では、従来より、「定尺シート用スキットの回収率アップ」をテーマに、木材のリサイクル促進を目指してきました。

この「定尺シート」とは、標準的なサイズの切板に使用する井桁スキットのことで、サイズが決まっており、再利用しやすい梱包用木材です。しかし、実際に回収すると、定尺シートを使用する最終需要家から回収する必要があり、その間には鋼材問屋等の存在、当社にとってのお客様の協力が不可欠です。

このため、2019 年度からは、お客様を巻き込んでのスキット回収の仕組作り力を入れてきました。この結果、活動を始めた当初のリサイクル率は 20~30%程度でしたが、2020 年度末には 50~60%程度まで押し上げることが出来ました。

2021 年度では、COVID-19 の影響のためか、リサイクル率は伸び悩み、維持するのがやっとという結果に終わりました。

持続可能な社会創りの一環として、今後もこの活動を継続していきます。

# ◆環境分野に関する活動報告 (その2)

本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
高効率な工場の実現と、省資源・省エネ活動で、温室効果ガス削減	クールビズ、ウォームビズの実践と、照明、待機電力のOFF活動で、資源のムダ・過剰消費抑制	○	日常業務の中での電力削減活動は定着。一部残っていた古いIT機器等の省エネタイプへの変更も完了し、電力削減に寄与。	今後も継続して、省資源・省エネ活動、生産効率向上活動を進めることで、温室、効果ガスの削減を目指す。
	生産効率の向上と、再生可能エネルギー活用で、加工重量当たりの使用電力量の20%の削減	△	太陽光発電の安定稼働と作業改善の推進により、加工重量当たりの使用電力量は昨年比18%減。	

## <ムダ・浪費の意識付け>



### ○クールビズ&ウォームビズ

エアコンの温度設定は当然。サーキュレータ、扉の開閉、ブラインド及び遮光フィルム活用で太陽光調整等々。冷暖房効果を高める活動も継続して行っています。

### ○無駄な電力削減

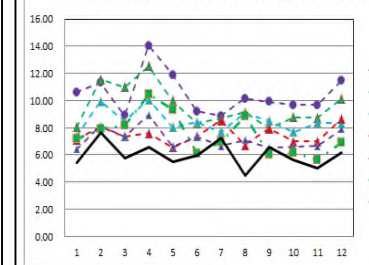
無用な照明、装置類の電源OFF。待機電力削減に加え、IT機器等の省エネ機器導入も完了。来年こそは、計画延期となった照明機器等の省エネタイプへの変更も計画しています。

## <温室効果ガスの削減に向けて>

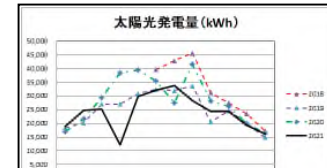
屋根全面に設置された太陽光パネル



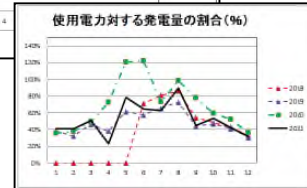
加工重量当たりの使用電力量 (kWh/t)



太陽光発電量 (kWh)



使用電力に対する発電量の割合 (%)



### ○省エネ工場を目指して

最先端のスリッターライン、レバラーシャーラインの導入による「高効率な生産設備」、太陽光発電による「再生可能エネルギーの活用」と言うハード面での準備は2018年に整い、現在、運用面での効率化を目指しています。

2018年5月より開始した太陽光発電も順調に稼働中で、総発電量は2019年301MWh、2020年340MWh、2021年度は若干落ちて289MWh。これも気象条件に左右されるため致し方ないのかもしれませんが。

総使用電力量に占める太陽光発電の割合で見ると、2019年47%、2020年65%、2021年50%と推移。使用電力の半分は太陽光発電で賄っていることとなります。

また、生産効率の指標として捉えている「加工重量当たりの使用電力量」を、大型設備投資完了前後で分けて見ると、

完了前 : 2015年 10.37kWh/t、2016年 9.48kWh/t、2017年 8.48kWh/t

完了後 : 2018年 7.46kWh/t、2019年 7.19kWh/t、2020年 7.34kWh/t、2021年 6.00kWh/t

のような推移を示しています。

ただ、2020年度、2021年度は、COVID-19の影響、また受注内容の変化もあったため、定量的な評価は出来ませんが、一連の設備投資と、2019年度より全社的に取り組んできた作業改善の結果から導き出された指標値だと思われます。

今後も社員一丸となって、省エネ活動と作業の効率化を進め、温室効果ガスの削減に努めて参ります。

# ◆ 腐敗防止分野に関する活動報告



本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
官公庁等の入札に関する談合への関与禁止	入札への積極的参加の姿勢を示すことにより、業界内での不当な価格操作を排除	△	今年度は、例年に増して入札案件が少なく、このため、直接応札する機会を持てなかったが、当社の姿勢を業界内に示す活動は継続中。	継続して、この活動を進めることで、談合等の腐敗防止を目指す。
得意先や仕入先との適切な関係	仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライチェーン構築	○	苦情、クレーム等を含む顧客要求について、仕入先、外注先との情報共有を図るとともに、意見交換の場としての定例会議をWeb会議の形で開催。サプライチェーン内での仕掛品、製品の運送に関する効率化、並びに検査体制の整備をテーマに改善を進め、ロスコスト削減に努めた。また、取引契約の見直しと更新を進め、取引の実態に応じた協力体制の強化を図った。	継続して、仕入先への情報提供と協議の場を設けることで、健全なサプライチェーン構築を目指す。
	交際費等の明確化による社内自浄活動の推進	○	以前からあった事前申請の仕組みを徹底させることで、社員への意識付けを実施。	継続して、啓蒙活動を行うことで、強要や贈収賄の発生しない土壌を維持していく。

# ◆その他の活動報告 地域貢献を目指して)



## スポーツ活動

### <卓球部>

日本卓球リーグ2部

全日本社会人卓球選手権大会



日本卓球リーグは2部からのスタートでした。本年度のリーグ戦は、欠場するチームがでる等、COVID-19の影響で開催自体も危ぶまれましたが、関係者の尽力で、無観客ではありますが、無事開催されました。また、インターネットで全試合がライブ配信されることになり、実際のリーグ戦を生で見ることができ、社員にとって、ある意味で貴重な経験となった年でした。成績の方は、前期千葉大会は3勝5敗で6位。後期埼玉大会は、2部の上位決定リーグ戦に進みましたが、3勝2敗の3位の結果に終わりました。残念ながら、1部の壁は厚く、2022年度も2部からの出発となりました。来年こそは、1部昇格、そして1部残留を目指します。

全日本社会人卓球選手権は、10月に山梨県で開催されました。こちらの方も日本リーグと同様に、厳重な感染予防対策を行った上での開催でした。当社からは、男子シングルスは3名、男子ダブルスは2組が出場。男子シングルスは4回戦、男子ダブルスは3回戦が最高の成績でした。

### <フットボールクラブ>

広島県社会人サッカーリーグ



広島県社会人リーグは、無事、全試合行われております。結果は、1部リーグBブロックを2位通過したものの、決定戦で勝てず、結果4位。しかし、天皇杯予選を兼ねた「M KASA CUP 全広島サッカー選手権大会」では、大学、社会人の強豪チームが出場する大会での初の4位。あと一步で、天皇杯には届きませんでした。また、新たな目標が出来ました。

### <剣道倶楽部>

地域に根差した活動



2021年度も、COVID-19の影響で、全ての大会が中止となりました。また、仕事の合間に行っていた子どもたちへの指導や、試合での審判なども中止。剣道は、室内で、面、小手等を付け、対面で行うスポーツ。なかなか、感染予防対策の取り難いスポーツとも言えます。来年こそは、大きな声で、気合を入れた稽古を行いたいものです。

# ◆その他の活動報告 世界の子供たちのために



## マラリア撲滅運動への参加 JC I Nothing But Nets キャンペーン

UNITED NATIONS FOUNDATION 国連基金協働事業  
JCI Nothing But Nets キャンペーン

**マラリア撲滅運動**  
マラリアは夜行性の蚊を媒体とする死亡率の高い感染症であり、毎年2億4700万人が感染し100万人の尊い命が失われています。その多くは5歳以下の幼い子どもたちです。感染を防ぐ最も効果的な対策として、国連が推奨する殺虫効果のある蚊帳の中で寝ることが有効であると実証されています。この殺虫効果のある蚊帳をひとつの家庭に配布する費用は、たったの1,000円です。私たち全国704の青年会議所メンバーは尊い命を救うために、地域の皆様と共にマラリアと戦います。

**あなたの一本が命を救う**  
この販売機の売上げの一部でマラリアに苦しむ子どもたちの命を救うネットを購入させて頂きます。お買い上げ頂きありがとうございます。

JCI



国際青年会議所と国連基金との共同事業の一つである JC I Nothing But Nets キャンペーン」に、当社も参加しています。

写真のような自動販売機で飲料を買うと一定金額が寄付され、殺虫剤処理された蚊帳がアフリカに送られるという仕組みです。2012年途中より、この自動販売機を本社、大阪支店、東京支店の3箇所に設置しました。

社員や近隣の方の協力もあり、義援金も2013年 52,913円、2014年 57,254円、2015年 57,492円、2016年 59,577円、2017年 59,593円、2018年 55,230円、2019年 47,582円、2020年 36,612円。今年度は、45,211円。

COVID-19の影響で、休業や在宅勤務が多かったものの、多少ではありますが回復し、どうか継続して寄付することができました。

## エコキャップ運動への参加

**地球に愛を 子どもに愛を**  
ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう!

ゴミとして焼却処分されるとキャップ430個で3,150gのCO<sub>2</sub>が発生します。

あなたの行動が世界の子どもと地球の未来を創ります!  
小さなキャップでも、分ければ資源! リサイクルして価値ある材料に。  
ペットボトルのキャップをみんなで集めよう! キャップは430個で10円になります。  
ポリオワクチンは1人分20円! キャップ860個で一人の子どもが救えます。

キャップ回収 → リサイクルメーカーへ → 資源をワクチン製造所へ寄付 → 世界の子供たちにワクチン届け → 世界の子供たちを救う

NPO法人(内閣府認証) エコキャップ推進協会 ECOCAP



2012年途中から始めたエコキャップ運動ですが、本社及び各支店に回収BOXを常設するとともに、来訪された方々へも協力の呼び掛けを行って参りました。

今では、恒例行事のように、わざわざ当社にキャップを持って来てくださる方もいらっしゃいます。

皆様のお蔭で、2013年約3,500個、2014年約3,800個、2015年約3,900個、2016年約4,500個、2017年約4,600個、2018年約5,200個、2019年約4,900個で推移。2020年は約3,700個と若干減少しましたが、本年度は猛暑の影響もあり、約5,200個と持ち直しました。

この活動も継続することが大切。2022年も、PRの方法にも工夫して、ささやかながら世界の子供たちのために頑張りたいと思います。